



[teeta]

46

「テエタ」はアイヌ語で“昔”を意味します。北の大地で繰り広げられた昔の人々の文化や環境を、現在と未来の人々に伝えるのが私たちの仕事です。昔のこと、古いことを広く知ってほしいという願いを込めて「テエタ」をこの冊子のタイトルにしました。



公益財団法人
北海道埋蔵文化財センターだより

- 函館江差自動車道に関わる木古内町の遺跡の整理作業 2
- 縄文人の「手」―北斗市押上1 遺跡出土の人体文土器― ... 3
- 令和2年度の発掘調査（令和2年度後半） 4
- 令和2年度発掘調査一覧 4
- 令和3年度発掘調査予定一覧 4



大型石棒と青竜刀形石器（木古内町幸連5 遺跡 縄文時代中期後葉～後期前葉）

【表紙解説】

写真左は、縄文時代中期後葉のフラスコ状土坑の底面から出土した石棒です。安山岩製で、長さ約45cm、重さ約17kgの大型のものです。全面をたたいて整形され、胴部中央がやや膨らんだ円柱状になっています。両端は平坦で直径が約12cm、中央部の直径は約15cmです。

写真右は、土坑および盛土遺構から出土した青竜刀形石器で、柄部は折れています。青竜刀形石器は中国の青竜刀に似た形であることから名付けられた石製品です。縄文時代中期後葉～後期前葉の東北北部～北海道南部にみられ、祭礼・儀礼に使用されたと考えられています。

○函館江差自動車道に関わる木古内町の遺跡の整理作業

私たちの仕事は道路や空港やダムなど主に大規模な公共工事に伴う遺跡の記録保存調査です。それらは広域な面積やときに総延長数百kmにわたる長大な範囲が対象となり、遺跡の濃密な場所ではしばしば連続した隣同士の遺跡の調査をすることとなります。

現在の作業の中心は高規格幹線道路函館江差自動車道建設に関わる報告書作りで、10名ほどの調査員が整理作業を分担しています。当センターでは平成15年度に北斗市で調査を着手して以降、工事工程に合わせて西側の木古内町に調査遺跡を漸進させてきました。北斗市では10年をかけて館野・矢不来地区ほかの12遺跡、82,111㎡を調査し、360万点の遺物が出土しました。木古内町では釜谷・札苅、大平、亀川・泉沢、幸連地区の順に進め、9年間で15遺跡、98,007㎡から390万点（現時点集計）の遺物が出土しています。それぞれの地区では遺跡群と呼べる連続した遺跡のまとまりがあり、1遺跡の調査成果はもとよりそれらの集合体を対象とした場合に縄文の村の変遷を検討でき、それは私たちの仕事の醍醐味でもあります。

発掘調査から順次整理作業を経て調査報告書を刊行していますが、最後に残った幸連地区の3遺跡（幸連・幸連4・幸連5）、札苅地区の1遺跡（札苅7）の整理作業を現在行っています。各遺跡の遺物は40万点を超え、特に幸連5遺跡は140万点以上で、当該事業関連で最大級の出土量となっています。また、住居などが繰り返し建て替えられ、長期間集落が継続していたことが特徴です。これらの遺跡は幸連川の河口周辺に位置し、幸連・札苅縄文村の遺跡群を形成しています。

整理作業は土器の接合・復元、石器の接合、微細遺物の選別、遺構図や遺物図の作成など多岐にわたりますが、遺物量の多さもあって土器の接合・復元が中心となっています。現在、30名ほどの作業員が感染症対策に配慮しながら集中的に専念しています。

札苅7遺跡では縄文時代後期後葉から晩期の、幸連5遺跡では縄文時代中期後半から後期初頭にかけての土器の復元作業の最中で、数百もの復元個体が得られる予定



幸連・札苅地区の遺跡 (google earthを加工)

です。これまで不明瞭であった当該時期の土器の変遷が詳細に明らかにされるでしょう。

幸連・幸連4遺跡では同じ縄文時代前期後半の遺構・遺物が発見されています。両者は比高20mほどの深い沢を挟んで隣接していますが、残された遺構の内容は異なり、土地利用に違いがあるようです。幸連4遺跡には主に竪穴住居跡、幸連遺跡には貯蔵穴や墓に転用された可能性のあるフラスコ状土坑が発見され、両遺跡が一つの集落を構成していたと考えられます。木古内町内では大平・釜谷遺跡などこの時期の大規模な遺跡が点在しており、遺跡群から視野を広げ、集落間の関係や構成など比較すれば興味深いものになるに違いありません。

それぞれの遺跡の整理が進み、遺跡間の有機的な関係が解明できれば、幸連・札苅遺跡群の変遷の様子が明らかになることでしょう。

(第1調査部第3調査課長 鈴木 宏行)



幸連5遺跡の土器接合・復元作業



幸連5遺跡の土器



幸連4 (左2点)・幸連 (右3点) 遺跡の土器

○縄文人の「手」—北斗市押上1遺跡出土の人体文土器—

道南の北斗市に所在する押上1遺跡は、今から4,500年前ころ（縄文時代中期末葉～後期前葉）に営まれた遺跡です。北海道新幹線の建設に先立ち、当センターで平成22・23年に発掘調査を行いました。その結果、2条の盛土遺構と多数の竪穴住居跡などが検出され、当時の集落の移り変わりの様子が明らかとなりました。盛土遺構からは土器や石器を中心に大量の遺物が出土し、なかには儀礼などに使われたと考えられる、特殊な遺物も見つかっています。そのひとつに、縄文人の「手」がありました（写真1）。

縄文時代に人のかたどったものと言えば、真っ先に土偶を思い浮かべます。しかし、押上1遺跡の「手」は、土器の表面に表現されたものでした。見つかった土器は9cm四方ほどの破片で、「手」のほかに、腕と胴体とみられる部分も確認できました。粘土の特徴などから、縄文時代後期初頭の土器と考えられます。

「手」は、粘土の塊を土器の表面に貼り付けて、刻みを入れることで5本の指を形作っています。一番上の指の付け根の位置が手首に近いので、これが親指とみられます。「手」から斜め右上方向に伸びる細長い粘土の貼り付けが腕、腕からやや離れた垂直な貼り付けが胴体と考えられます。胴体の刻み目の模様は背骨のようにも見えますが、どうでしょうか。

人の体が表現された土器は、「人体文土器」と呼ばれています。縄文時代前期～晩期の東日本で主に出土していますがその数は土偶よりもずっと少なく、また、人体という特殊な文様をもつため、特別な用途をもった土器と考えられています。北海道では、晩期の出土例や、人面が付いた「狩猟文土器」はありますが、人の体全体を表現した人体文土器としては、押上1遺跡が初めての出土例となります。

人体文土器の表現には様々なバリエーションがありま

す。そのなかで新潟県井の上遺跡の人体文土器は、粘土の貼り付けによる表現であることと、手の表現が写実的なことが、押上1遺跡とよく似ています（写真2）。そこで、井の上遺跡の土器を参考に、押上1遺跡の人体の全体像をイメージしてみました。顔が正面を向き、手のひらをこちらに向けて両腕をやや開いた立ち姿と想像できます。少しガニマタですが、頭が小さくて手足の長い、なかなかスタイルの良い縄文人になりましたが、いかがでしょうか？

押上1遺跡の整理作業の期間中、この人体文土器の他の破片を探して、出土した12万点あまりの土器を根気強く探しましたが、とうとう見つかりませんでした。押上1遺跡は未調査の部分がまだまだ残されています。今でもきっとどこかに、この土器の破片が埋まっているに違いありません。いつか、本当の姿にお目にかかりたいものです。

【参考文献】

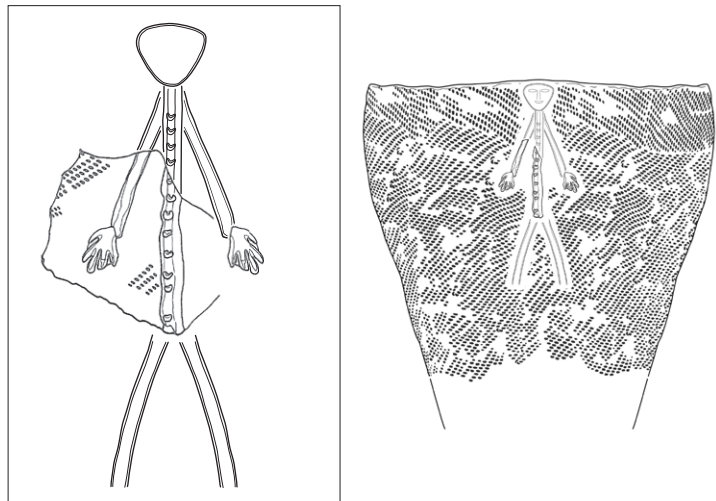
滝沢市埋蔵文化財センター 2017
 『人体文土器とその世界 平成28年度パネル展』
 佐藤啓 2017 「当館所蔵資料の新知見」
 『福島県文化財センター白河館研究紀要2016』
 (公財) 福島県文化振興財団福島県文化財センター白河館 ほか
 (総務部総務課主査 柳瀬 由佳)



写真2 井の上遺跡の人体文土器 (写真提供: 長者ヶ原考古館)



写真1 押上1遺跡出土 人体文土器片 (倍率約3/4)



押上1遺跡の人体文土器 復元イメージ

○令和2年度の発掘調査（令和2年度後半）

○根室市トーサムポロ湖周辺^{ねむろ}堅穴群^{こしゅうへんたてあなぐん}

調査の様子

遺跡は、根室半島東端の納沙布岬^{のさつぷ}から西に約5km、オホーツク海に面するトーサムポロ湖周辺の台地上にあり、多くの堅穴（くぼみ）がみられる点が特徴です。当センターの調査は今回で6か年目となり、過去の調査では縄文時代前期やオホーツク文化期、アイヌ文化期の集落跡等がみつかっています。

今年度は昨年8～10月の3か月間で、道路下の部分を調査しました。遺構はアイヌ文化期の貝塚や平地住居跡、縄文時代早期の堅穴住居跡等がみつかりました。遺物は、土器では縄文時代早期～晩期やオホーツク式土器等、石器は石鏃やスクレイパー、砥石等が出土しています。

○令和2年度発掘調査一覧

事業者		事業名	市町村	遺跡名	面積(m ²)	備考
国土交通省 北海道開発局	札幌開発建設部	長沼南幌道路工事	長沼町	16区F	333	
北海道	釧路総合振興局	根室半島線改良工事	根室市	トーサムポロ湖 周辺堅穴群	1,267	
その他	独立行政法人鉄道建設・ 運輸施設整備支援機構	北海道新幹線建設事業	長万部町	共立2	4,200	
				豊野4	320	
合計					6,120	

○令和3年度発掘調査予定一覧

事業者		事業名	市町村	遺跡名	面積(m ²)	備考
国土交通省 北海道開発局	札幌開発建設部	新千歳空港誘導路複線化事業	千歳市	美々4	320	
	小樽開発建設部	一般国道5号俱知安余市道路(共和一余市)	仁木町	モンガクC	2,910	
	室蘭開発建設部	特定緊急砂防事業(厚真川水系)	厚真町	ニタッポロ沢	524	
				桜丘1	1,343	
	網走開発建設部	遠軽北見道路(生田原道路)	遠軽町	旭野5	2,640	
東日本高速道路 株式会社 北海道支社	帯広管理事務所	道東自動車道 占冠IC～トマムIC 4車線 化事業	占冠村	占冠原野1	2,126	
合計					9,863	

◆交通案内◆・JR大麻駅から、徒歩約20分 ・新さっぽろバスターミナル発

- ・JRバス(文京台線循環新83)・夕鉄バス(文教通西)に乗車「くりの木公園前」下車、徒歩5分
- ・JRバス・夕鉄バス(江別方面行き)に乗車「北翔大・札学院大前」下車、徒歩15分